

座談会

にぎわった

『木と暮らしの情報館』



と き 平成 2 年 2 月 9 日 午後 3 時 ~ 5 時

と ころ ニュー北海ホテル 3 F 水晶の間

出 席 者 (あいうえお順・敬称略)

| | |
|-----------|--------------------|
| 青 柳 正 英 | 北海道立林産試験場企画指導部長 |
| 浅 野 眞 | 浅野木材株式会社旭川支店長 |
| 市 川 好 彦 | 北海道林業経済新聞社旭川支社長 |
| 上 畑 正 和 | 北海道林材新聞社旭川支社次長 |
| 大 野 仰 一 | 北海道東海大学芸術工学部助教授 |
| 高 橋 二 郎 | 昭和木材株式会社社長 (当協会長) |
| 塚 本 道 夫 | 北海道立林産試験場 (元) |
| 寺 田 栄 子 | 旭川市立春光台中学校教諭 |
| 中 村 美 津 子 | 旭川市立豊岡小学校 P T A 役員 |

司 会

| | |
|---------|----------------|
| 高 橋 弘 行 | 北海道林産技術普及協会副会長 |
| 葛 西 章 | 北海道立林産試験場普及課長 |

司会 話題を呼んだ「木と暮らしの情報館」も、昨年6月開館以来8か月をこえようとしていますが、雪解けと共にまた大勢のお客様をお迎えするシーズンに入ります。そこで今日は、各界9名の方々にお集まり頂き、「木と暮らしの情報館」の日頃の活動について、ご感想や、ご意見を聴く会を開催することに致しました。

まずはじめに、当協会の高橋会長から、ご挨拶を兼ねて口火を切って頂きましょう。

一抹の不安をかかえてのスタート

高橋 今日、皆様大変お忙しい中、わざわざおいで頂き、本当にありがとうございました。



「情報館」は、国、道をはじめ、学識経験者、業界の熱心なご協力を頂き、ご承知のように昨年6月オープンいたしました。果たしてうまくやって行けるのか一抹の不安を抱えてのスタートでしたが、12月までに2万2千人の方々がおいでになったということで、まず予想をはるかにこえる反響にびっくりしています。皆さんの木に対する愛着や、木の良さについての認識が定着しつつあるんだなあ、と嬉しく思っております。イベントも2回行ないましたが、これも大盛況でした。

やがて2年目を迎えようとしているのですが、今回の座談会を通じて、ご批判なり、こうしたらいい、ああもしたらいいといったお話を伺えれば幸いです。

今年は旭川市が開基100年ということで、いろいろなイベントが計画されています。そのなかで7月3日から6日間旭川地場産センターと大雪アリーナで、木製家具を中心に国際デザインフェアを行ないます。既に内外から475点におよぶ出展希望が寄せられ、本日予備審査が行われている段階です。また林産試験場も開設40周年だそうですので、これらのイベントとうまくジョイントし

て、「情報館」も、更に大勢の方に知っていただき、もっともっと活用して頂けるよう努力したいと考えています。

司会 次に、お客様として情報館においで頂いた中村さんと寺田さんのお話をお伺い致します。

PTAや生徒の研修の場に

中村 私は豊岡小学校のPTAの役員をしています。毎年、教養部の行事として旭川市内の施設見学をしているのですが、子供たちが帰るまでに帰宅していなければならないとか、お金が掛からない所だとか、いろいろ制約もありまして、場所選びも悩みの種なんです。市の観光課に相談したところ、オープンして間もない情報館の事を知りました。



中村さん
そして、一回下見をしてから、7月15日お母さん方51人で情報館をお訪ねした訳なんです。皆さんにも大変喜んで頂きました。旭川にもこんな素晴らしいところがあったんだね、とみんな感激しておりました。ただ、皆さん、何か買い物したかったらいいのですが、少しお値段の高いのが不満のようでした。この席に出るまえにも、教養部のお母さん方に聴いて来たのですが、暖かくなったらあの辺の空気はおいしいし、建物も素晴らしいので、子供たちとお弁当もって、外で食事したらいいねとかね、もっと自分たちと身近になれる事をやって頂けたら、もっともっと活用できるのではないかといいお話もありました。

寺田 11月2日に2年生の一日研修として11人の女子生徒を連れて情報館を訪ねました。一日研修というのは、この5月に修学旅行があって、函館市ではグループに別れて自主研究を行なう計画なのですが、その前に2年生の段階で、子供たちだけでどれだけの事が出来るだろうかという意味で、学校見学と、職場訪問をやってみた訳です。情報館は「職場訪問」だったのですが、この席に

おいでの塚本さんに、いろいろ質問をしながら案内をして頂きました。

一日研修を終えて、作文を書かせたのですが、14才の素直な気持が表われていました。子供の感想は次のようなものでした。

① せっかく行ったから、何か小さなものでも作れば良かった。

② 欲しいものがあったんだけど、もう少し安くすれば買えたのに。

③ 木のぬくもりも、木の香りも素晴らしかったし、すべてが木できていてびっくりした。木で作られた作品がとても可愛かった。

いかにも女の子ですね。男の子がいれば、もっと変わった意見が出たかもしれません。バスを待つほんの10分ばかり、ログハウスや木製遊具で遊んだようでしたが、時間があればもっとゆっくりしたい様子でした。

はじめの構想はこうだった…情報館は木のデータベース

司 会 いろいろな活用方法があるものですね。ちょっと話が変わりますが、情報館の展示については、東海大学の¹大野さんにコーディネーターをお願いしたのですが、結果としてはいろいろな事情が重なって、ご指導通りに行かなかった所も多かったようです。そこで、本来どうあるべきなのか考える意味で、あらためて大野さんのプランをご紹介します。

大 野 私は林産試験場内の庁舎と試験棟を木の「シンクタンク」、これに対して情報館とログキャabinを木の「データバンク」と考えました。データバンクの機能としては、道内、国内



大 野 さ ん

を問わず、世界の木に関するあらゆる情報を最大限に集めるシステムを作らなければなりません。膨大な情報のごく一部が展示されていると考えれば良いのです。実物がそ

こで見られなくても、このネットワークを使って疑問をひもといて行くことができます。また、私は最初プロをターゲットと考えました。建築業界や家具業界で実際に仕事をしている人達が、例えば木の性質だとか木の使い方だとか、そういった情報を得るために情報館がある、そして展示物もそうだけど、その裏にあるバックヤードのシンクタンクまで引き出せる期待をしたのです。

では、何を展示するかということですが、あまり「道産品」にこだわらないほうが良いのではないか。もちろん、子供たちを啓蒙するのも良い。しかし、実際に木を使うのは大半が建築屋さんです。どうも建築、特に設計の方の情報の方が早くて、やっぱり蓋を開けてみると情報そのものが古くなっているような気がします。やはり官が運営する以上、そこを先取りするように相当に努力をしないといけないと思います。入館者の中に建築関係者や研究者が少ないのも問題でしょう。

林産試験場に子供達が来て一番興奮するのは、製品ではなくて、木を削っているところとかログキャabinを作っているところ、集成材を貼り合わせているところ、そういう巨大な機械がうなりながら物が出て行く・・・そこではないでしょうか。ただ、それでは仕事に差し支える。そこでミニチュアで工程の分かるような展示はできないのでしょうか。隣のログキャabinで、素材と加工の手順をみせるシステムがあって、でき上がったものはこんな物なんだというのが情報館で紹介されるというようなストーリーを考えられませんか。

これも当初考えていた展示の基本的考え方なのですが、展示自体はあくまで見本帳で、様々な種類の材料の構成の違い、塗装の違い、接合方法、接着方法の違い、施工法の特長といったものが前面に出るべきで、これは〇〇会社の製品ですといったことが前面に出るのは感心できません。また、見る人にしてみれば、××会社の「ナラ」というよりは、「ナラ」と「カラマツ」はこう違うんだよ、といったことを求めていると思うんです。

はじめ手で触れられるクラフトのようなものからスタートして、段々大きくなって、家具や建

具、そして建築、都市という展開も考えました。これも一部うまく伝わっていないようです。

現在、建築分野でも木のブームです。旭川市でもウッドタウン計画が進展中で、こういう所ともうまくリンクして情報を流せるような存在になってほしいと願っています。

司会 一般の方とプロの方からお話を頂きました。少し話を整理する意味で、展示の企画段階から実施まで、事実上の責任者として活躍された青柳さんから、お答えも兼ねてお話をください。

青柳 当初の予算では、建物はできたものの、階段もなければ2階もない、展示用の壁面もなければ、展示台もないといった、ないないづくしの状態でした。冬のさなか、試験場の殆どの職員が、多少の研究の遅れ



青柳さん

を覚悟して内装工事に取り組んだ訳です。こういった意味では、今までにない試験場と業界のつながりもできたし、素晴らしい展示館を作るといった目的意識ができて上がったことを喜んでいきます。

先程大野さんから情報館の展示から活用まで大変懇切な数々のご指摘を頂きました。これらのなかには予算だとか、運営の仕組みからどうにもならなかったものもあるのですが、これからなんとか改善して行きたいと思っています。特に、情報のネットワーク化には私も全く同感で、予算的には厳しいですが、今後できるだけ早く手がけて行かなければならないでしょうね。

司会 浅野さん、出展者の立場から見たときいかがでしょう。

ウッドタウン構想とのコンタクトが課題

浅野 大野先生からも青柳さんからもありましたが、「産みの苦しみ」というのはかなりありました。ところが、実際にやってみると、あの建物の中に、ああいう展示物・・・私も床板を出展しているのですが、結果的には甚だ平々凡々とい

う形になってしまっていて、実は私も不満を持っています。ただ、いざ出展物を集めようとする、金銭的な問題、スペースの問題、個々の出展者の要望などが絡み合っていて、まあこれは裏話になりますが、苦肉の策から生まれた「平々凡々」であったと思っています。問題はこれからだと思



浅野さん

うのですが、やはり展示に動きやダイナミックさが足りない。情報の発信源になるというのも口で言うほど簡単ではない。主婦や子供との接点をどうするか。いずれも難問ですね。これは単なる展示場から本来の情報館の姿に脱皮するということでしょう。これには経済行為が伴って来るものですから、これをどうクリアするか、我々も考えて行かなければと思っています。親子でお弁当を食べに来たくするような外景整備も大切ですね。

また、先程大野先生のおっしゃった旭川市のウッドタウン、70戸くらい建てられる予定もあるので、何らかのコンタクトをとって頂いて、一つの情報はここから出ているんだというような活動をして行きたいものです。こうした過程で情報館のPRをし、施設の充実も計れるし、整備もできる。このためには、官も予算措置をして頂き、我々も自助努力をするというのがベターではないでしょうか。

司会 今日は業界紙からおふた方おいで頂いています。新聞記者の目を見た情報館の評価をお話しいただきたいと思います。上畑さん、市川さんの順でお願いいたします。

重要なイベントの企画・充実した遊びの空間

上畑 そうですね、あの情報館が作られる時のターゲットは何だったか振り返ってみますと二つありました。一つは、木を使ってくれる設計屋さん、工務店、大工さんで、もう一つは家庭の主

婦をはじめとする一般の人達です。最近、マイホームを考えるにも、奥さんや、子供さんなど家族の発言権が強くなって



上畑さん

いる傾向があります。情報館ができ上がった今、客観的に見ますと、ハードな面が強くて出ているように感じます。つまりプロ化しすぎているのではないのでしょうか。一般の人が値段、製品の種類な

どの面でもっと身近なものと感じるソフトな面が全体的に出ていけばいいのではないかと思います。今の状態ですと確かに、木というものは良いものだという事は分かって、高くは手が出ないという主婦のご意見は当然です。消費者の好みも多様化している時代ですから、バラエティーに富んだ物を見て、選択して頂ければ良いと思います。

情報館を知って頂くのには、あの場所でイベントを開催して人を集めるのも良いでしょうし、新聞や雑誌を媒体としてPRするのも良いでしょう。そのなかでもイベントの企画は重要だと考えます。

市川 私も、上畑さんと同じく公平な立場で言わせて頂きますが、まず、半年で2万2千人の方が情報館をご覧になったことに感激しています。私も実は専門家に偏った印象を受けているのですが、それにもかかわ



市川さん

らずこんなに入ったのですから、関係者のご苦勞も報いられたでしょう。

ただ率直に言えば、展示内容に、一般の人が楽しんで見て帰るといった配慮が欠けているように思います。当初私が情報館を訪ねたとき感じたことは、周囲の雰囲気ややはり研究機関特有の硬い感じが抜け切れていない、と言うことでした。また情報館内部は、実際の面積より狭く、圧迫感がありました。外とのつながりをうまく工夫して

もう少し解放感を持たすことはできないものでしょうか。

ただ見て帰るだけでなく、ゆっくり遊べる空間も欲しいですね。国道からログハウスを経て情報館に至る一角に木陰でも作って公園化したら良いと思います。

司会 情報館には、各界、各層の方がおいでになり、塚本さんは、それぞれに応じて大変親切に対応なさっているのですが、ご感想はいかがですか。

評価して欲しいプロの技と木のある豊かな暮らし

塚本 私は情報館の説明担当をしています。日頃考えているのは、おいでになった方が、どういうことを感じ、何をとらえて持ち帰って下さるかということです。木の利用が多様化してきています。この傾向はホームビルダーにも、建材メーカーにも反映してきているのは事実です。マイホームの中で、木材を機能的にかつ、やすらぎの場、健康な生活の場となるように、いかにうまく取り入れて行くかを助言するのが、情報館の一つの大切な役割だと考えています。



塚本さん

展示品についてはそれぞれ特徴があり、人の見方も様々です。しかし、この部屋を見てください、確かに機能性には高いけれど、ちょっと潤いが欠けています。これが木を取り入れることによって心のやすらぐ豊かな生活を楽しめるとしたら、これほど魅力的なことはないでしょう。基本的にはこういった知恵を持ち帰って頂きたいのです。

司会 先程から値段が高いというご意見が多いのですが？

塚本 優れた北海道木製品ということで展示品を選んでおりますからそういう傾向はあると思います。でも、これはおもにクラフトのことをおっ

しゃっているのではないのでしょうか。

クラフトの多くは手造りです。例えば茶托の5枚セットが置いてありますが、5枚がバラバラの目をしていたら何にもなりません。木の目合わせにも繊細な気配りがしてある所を見てほしいのです。ただ、記念品として気軽に買えるものも置いたほうが良いですね。

司会 実際にお客様に接してみて、お客様の感想はいかがですか。

塚本 「スバラシイ」といった声が直に返ってきます。カラマツを植えている人は、その製品を見て「普段悪いイメージばかり強調されているカラマツも、こんな使われ方があるのか、自分達も良いカラマツ林を育てなければいけない」と言っていました。

司会 寺田さん、主婦の立場からみて、木に対して日頃どのように感じていますか。

木が大好き。音楽もいいな。

寺田 学校は、現在床にPタイルを張っているのですが、足が疲れま
す。前の学校では木が使われていたのですが、歩くときのあの足音、木の暖かさはなんともいえないものです。私個人としても木は大好きです。



寺田さん

中村 私も木は大好きです。子供と公園で遊んでいると遊具に鉄パイプが多く使われています。寒い日だと冷たいのでこれが木でできていればいいのと思います。小さい子供のうちから木に触れさせるのがいいと思います。情報館も一部の方だけが利用するのではなく、大勢の人に好かれて発展してほしいものです。木の展示ばかりでなく、あのすばらしい建物を利用して音楽会とかバラエティーに富んだ企画をしたらどうでしょう。

大野 友人が来たときに、どこを見せようかと考えると、その中の一つに展示館をあげます。旭川は木の街だし、こんな所があるよと見せるに

はすごくいい所だと思います。

司会 私としては、情報館の展示は地味だと感じているのですが、木を自分で選ぶという点ではある程度目的を達成していると思います。実際にマイホームを造改築するときに、情報館は役に立つのでしょうか。

大野 基本的には一般の方は素材を見せてもイメージがわからないと思います。モデルハウスに連れていったり、雑誌を見たほうが情報は早いでしょう。

青柳 私は山づくりが専門で木の良さは自分なりに理解していたのですが、実際にすばらしい木製品や内装材などを見ますと本当の木の良さが理解でき、欲しくなってくるものだとつくづく思いました。

あれもやりたい。これもやりたい。夢一杯。

司会 今まで抽象的な話が多かったのですが、来年のための具体的な話をしていただければと思います。

高橋 モデルハウスがあればいいと思います。遊具などを常設して緑をふやせば変わるでしょう。東京の木の情報館では木造住宅の展示が10棟ぐらいあります。モデルハウスとの連動は大切だと思います。もちろん、今の4~5倍の広さが必要でしょうが、そうなれば、コーヒーハウスや小さな売店ぐらいまで発展するでしょう。

塚本 私も、モデルハウスが2~3棟あればと思います。道の行政的な配慮のなかでとりあげてほしいと思います。

高橋 旭川のレベルの高い木造住宅に連動して案内するのもいいでしょうな。

司会 具体的なイベントとして何かありませんか。

浅野 先ほど寺田さんから何か作りたかったという意見がありましたが、ハンドクラフトで子供でも簡単に作れるものであればすぐに対応できるのではと思います。

司会 私も、将来木工室でも持てればと思っています。

寺田 子供の記念になるのでいいでしょうね。木の種類も豊富にしてほしいです。

大野 素材に触れさせるのが一番いいでしょう。

浅野 ナイフを使ったらだめだとか、けがをしたらどうするとかの問題がありますが、パズルのようなもので、簡単に組み立てられるものがいいですね。

青柳 木工教室に関心の高いことは確かです。現状では、私どもが全道に出向いて行って木工教室を行っています。来年からは、中学校の技術の先生やボランティアの方を集めてこれらの方々に指導してもらおうかと思っています。

上畑 情報館の普及には直接的なものと、間接的なものがあります。直接的なものとしては、部分的な展示よりもマイホーム型のものが良いと思います。間接的な普及は、木の良さを一般の人に身近に知ってもらうことでしょう。「母と子の木工教室」などの身近なキャッチフレーズがいいでしょう。

司会 展示館の今後のありかたについてお話し願います。

市川 誰をターゲットにするかということですが、つまり展示館に来るのに家を建てる目的でくるのか、それとも木に親しむために来るのかということですが、何を一般の人が求めているのか分かってくるとと思います。その人達の要望に移行させるのが良いと思うのですが。今の内容では、専門家にも、一般の人にも

中途半端な内容だと思います。

浅野 協会が音頭をとって木について関心の高い方々を木をPRするような所へ連れていくような企画も必要でしょう。木を見るツアーといったものですね。

司会 敷地内はどう整備していったらよいでしょう。

寺田 木を植えたらいいでしょうね。たとえばナラとかシラカバとか。

大野 木レンガとテラスで囲まれたスペースを利用して収穫祭とかジンギスカンなどをやるのもいいでしょう。素材としての木の良さがじかに伝わるものだと思います。

青柳 林産試験場の展示館として特色ある運営をしていくには、どんな業界がどういった物を作っているのかというように、道内はもとより、木材の加工に関する総合的な情報を集める必要があります。このことが、試験場の研究にもフィードバックされてくるし、業界との接点も密になると考えます。

司会 皆さん、話も尽きないといった状態なのですが、残りは次の機会ということにして、座談会はこれで終了させて頂きたいと思います。貴重なご意見を沢山頂戴することができ、本当に嬉しく思っております。皆様のご提言は、できることからということになりますが、これからの運営に十分反映させて頂きたいと存じます。今日はありがとうございました。

(文責 安久津 久)



司会 (高橋)



司会 (葛西)



社団法人 北海道林産技術普及協会では機関誌ウッディエイジ
(B5版)の特集号を頒布していますのでご利用下さい。

価格はいずれも実費 ()内は送料

・特 集 号

| | | | | |
|-------------------|-------------|-----|--------|--------|
| カラマツを使ってみませんか | (昭和56年) | 25頁 | 400円 | (175円) |
| Theおがこ | (昭和58年) | 26頁 | 400円 | (175円) |
| 窓(木製サッシの実用例集つき)※ | (昭和59年1月号) | 35頁 | 700円 | (250円) |
| 木材工業とマイコン※ | (昭和59年11月号) | 17頁 | 340円 | (175円) |
| 木製軽量トラス※ | (昭和59年12月号) | 16頁 | 320円 | (175円) |
| 木の良さ再発見 | (昭和60年1月号) | 22頁 | 300円 | (46円) |
| 今なぜ広葉樹か※ | (昭和60年3月号) | 22頁 | 440円 | (175円) |
| カラマツ・セメントボード※ | (昭和60年10月号) | 43頁 | 860円 | (250円) |
| 単板積層材※ | (昭和60年11月号) | 30頁 | 600円 | (250円) |
| キノコ(その1) | (昭和61年3月号) | 29頁 | 500円 | (46円) |
| 木材の農畜産業への利用※ | (昭和61年5月号) | 27頁 | 540円 | (250円) |
| 「木の家」百年持たせませす※ | (昭和61年9月号) | 23頁 | 460円 | (175円) |
| キノコ(その2) | (昭和61年11月号) | 23頁 | 600円 | (46円) |
| 林産試験場の成果※ | (昭和62年1月号) | 43頁 | 860円 | (250円) |
| 林産試験場移転整備※ | (昭和62年5月号) | 25頁 | 500円 | (175円) |
| 日曜大工のすすめ※ | (昭和62年6月号) | 24頁 | 480円 | (175円) |
| 木造住宅の保守管理※ | (昭和62年12月号) | 23頁 | 460円 | (175円) |
| 木の良さ・木の香りを教室へ※ | (昭和63年7月号) | 33頁 | 660円 | (250円) |
| 木質飼料※ | (昭和63年10月号) | 17頁 | 340円 | (175円) |
| 第38回木材学会大会の概要※ | (昭和63年11月号) | 33頁 | 660円 | (250円) |
| 最近の木工機械と刃物 | (昭和63年) | 47頁 | 500円 | (51円) |
| わかりやすい木材乾燥 | (平成元年) | 38頁 | 1,500円 | (51円) |
| 木造住宅の良さ | (平成元年2月号) | 26頁 | 800円 | (46円) |
| 林産試験場の試験研究各部・科の紹介 | (平成元年7月号) | 26頁 | 600円 | (46円) |

注：品切れの場合はコピーになります。※印はコピー。